

<p>3. 特別枠 [Special quota] (1) 活動内容 [Activity details] (2) 成果 [Achievement]</p>	<p>他の大学院（前期）科目の開講曜日／時限の兼ね合いから、履修者は言語学を専門とする1名のみであったが、高い英語力を有する学生であったことから、極めて緊密なワン・ツー・ワンの授業を実施することができた。また、当該学生の研究領域が「喜界島における方言」であり、喜界島には離島空港が存在することから、<u>教員の専門分野の1つである「離島における航空ネットワーク」からアプローチが、当該学生の新たな知的好奇心を惹起すると同時に、自らの研究内容を同方向へ拡張することについて、当該学生が高い関心を示していたことは印象的であった。</u></p> <p>(3) 研究内容</p> <p>研究テーマは、「環境制約下におけるアジア地域の最適な航空ネットワーク形成とハブ配置の解明」である。その背景として、世界的な航空規制緩和が進展している中で、大手航空会社は高い運航効率性を実現可能なハブ・アンド・スポーク・システム（HSS）を採用し、LCCは中小型機による多頻度運航（ポイント・ツー・ポイント・システム（PPS））を行っている。しかしながら、現在、<u>国際航空からの地球温暖化ガス排出に対する環境規制の重要性が認識され、2021年には、「市場メカニズムを活用した温室効果ガス削減制度（GMBM）」が導入された。</u></p> <p>上記のような研究背景を踏まえた上で、本研究の第1の目的は、<u>アジア地域を対象として、ポスト・コロナ社会における環境コストを内生化した最適な航空ネットワーク形成とハブ配置を明らかにすることである。そして、日本の国際空港政策に対して、中長期的な戦略的提言を行うことを、本研究の第2の目的とする。</u></p> <p>そして、本研究の第1の意義は、経済学やオペレーションズ・リサーチ（OR）の分析手法を基調としながら、環境学や地理学、政策学、情報科学をはじめ、既存の研究分野で蓄積されたモデルを適用・拡張・融合する学際的研究である点にある。本研究の第2の意義は、従来の航空ネットワーク形成とハブ配置モデルに、環境コストを内生化する新しい研究である点にある。そして、ポスト・コロナ社会における都市集中（事業効率化）と都市分散（事業継続）に着目し、エビデンスに基づきながら、日本の国際空港政策に対する中長期的な戦略的提言にまで繋げるところに、本研究の第3の意義がある。</p> <p>(4) 研究成果</p> <p>以上のような問題意識を踏まえて、本研究の期待される成果としては、以下の3点が明らかになることが挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アジア地域における環境コストを内生化した最適な航空ネットワーク形成とハブ配置 2) ポスト・コロナ社会における都市集中／都市分散や企業活動の空間分布、およびその航空ネットワーク形成とハブ配置に対する影響 3) 航空輸送拠点の経済的メリット、すなわち、航空輸送拠点となった都市の持続的な経済成長の可能性 <p>本滞在終了時には、受入担当教員である松本教授と共著で、以下の論文を投稿した。</p> <p>論文名：Air Connectivity Evaluation by the Approach of Network Programming Models 投稿先ジャーナル：Research in Transportation Business & Management (RTBM)</p>
--	--

	<p>(5) その他</p> <p>滞在期間中に、以下の2つのプレゼンテーションを行った。1つは、受入担当教員である松本教授の3回生および4回生の合同ゼミにおける発表であり、もう1つは、総合政策学部の学部研究会（第3回 総合政策セミナー）における発表である。このような機会を通して、総合政策学部の学生および教員とコミュニケーションを図ることができたことから、一層、本滞在が有意義なものとなったと確信する。</p> <p>[プレゼンテーション①]</p> <p>日時：2024年6月25日（火）16：00－17：00 場所：神戸三田キャンパス II号館 107教室 対象：総合政策学部 学生（松本ゼミ3回生&4回生） 参加者数：約30名 報告内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Introduction to ADB Operations ・Sample Projects and Development Trend ・ADB Secondment Experience ・ADB Lessons <p>[プレゼンテーション②]</p> <p>日時：2024年7月10日（水）17：00－18：30 場所：神戸三田キャンパス I号館 第2会議室 対象：総合政策学部 教員 参加者数：約10名 報告内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> Part I: The basic personal information, the educational background, and the teaching/research areas Part II: The career path, with the emphasis on the two-year secondment at Asian Development Bank Part III: The summary of the project “Economic Impact of Engagement with Taiwan – A Comparative Study.”
<p>受入担当教員コメント （日本語で記載）</p>	<p>約4ヶ月間にわたる本学での滞在中、黄教授は2科目（学部：1科目、大学院：1科目）の授業を担当すると同時に、受入担当教員との共同研究（国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）））に取り組んだ。</p> <p>担当した授業では、学部及び大学院の学生は、ロジスティクスやサプライ・チェーン・マネジメント（SCM）における最先端の研究成果に触れるとともに、アメリカ流のディスカッションも採り入れた授業内容を経験したことから、学生の知的好奇心を刺激し、極めて好評であったようである。</p> <p>研究に関しては、同共同研究のテーマ（環境制約下におけるアジア地域の最適な航空ネットワーク形成とハブ配置の解明）に集中的に取り組み、滞在終了時には、国際ジャーナルへの投稿を終えるなど、同共同研究を飛躍的に推進することができた。</p> <p>以上のことから、海外客員教員（招聘A）による黄教授の滞在は、学生の国際活動、および研究者の国際交流を促進する上で、本学にとっても極めて効果的であったと確信する。このような機会を提供いただいた大学に対して、心から感謝の意を表す。</p>

海外客員教員が成果報告欄をご自身で記入される場合は、本書式をお使い下さい。

* 本報告書は、本学ウェブサイト等で公開されます。